

脱サラして
ペンション経営



最近ではペンションとマンションを混同する人も少なくなくなってきています。それだけペンションも宿泊施設の一形態として認識されつつあると言う事なのでしようか。

私も昭和四六年に母校を卒業し地元、名古屋の新聞社に一年間、勤務していましたが、自然の中で暮らす夢が捨て切れず五七年春に退社し、八ヶ岳 山麓の山梨県大泉村でペンション

OB
短信

ン「ほいっほ」を開業しました。
何しろサラリーマン生活から一八〇度の転換でしたので独立できる嬉しさと同時に多少の不安もありました。知り合いの方の紹介で僅か二ヶ月程度ではありましたが名古屋のレストランで馴れない調理の勉強をさせて頂いたことも今では楽しい思い出です。

開業当時は、ブームでもあり、又目新しさも手伝ってか予想以上の宿泊客に恵まれ、三四年後には、なんとか経営も軌道に乗りました。その間、幾度となく宿泊客の方々からも「自分もやってみたいのだが」といった相談を受けサラリーマンの方々にも根強い転職志向があるんだなと感じたりもしたものです。

ある時なと妻の知人から「突然、部下がペンションをやりたいので、と辞表をもつてきて、当惑している。木人とそちらに意向かせるので、とにかく話を聞いてやって欲しい」との電話を受けました。やって来た本人の話を総合して感じたことは夢と憧れが先行して

「少々危なっかしいな」といったものでした。
一晩かけて断念するよう本人を説得し、後日、上司の方から大変感謝されたりしたものです。とかく外から観ると華やかで面白そうに思われる職業ですが、携わって見ると他人に言えない苦労があるのも事実です。

家族的サービスと低料金が売り物のペンションですが現在では名古屋市役所、日本道路公団、愛知県農協連などの指定も受け利用客層も若年層から家族連れへと拡がりを見せています。
一歩ずつ「一歩一歩」のんびりと歩き続けている昨今です。

(鈴木智 七一年卒)
☆「ほいっほ」の連絡先
山梨県北巨摩郡大泉村
〇五五一一二八八三二五



三重支部
昨年一月二十九日、三重支部設立総会が津都ホテル

にて開催されました。当日は三重各地から一六名、大学から笠原法人局長、同窓会本部より加藤会長、富田副会長、中野事務局長が参加して、盛大に催されました。笠原局長からは大学の現況の説明などがあり、その後将来の母校の発展のための同窓会の活動等が真剣に話し合われました。

今後の三重支部の活動運営で、支部長に稲垣氏を選出し、次回の会合を榊原温泉で開催する事を決めて散会致しました。今後三重支部は、強い同窓生のパワーで他大学並みに大学諸活動を同窓会のバックアップのできる日も近いことでしょう。

(中野隆白 七一年卒)
関東支部
七月二二日(土)、初めて関東地区同窓会が開催され、一期生から二八期生まで約二〇名の同窓生が集いました。久しぶりの再会に、参加者はいずれも感激の面持ちで旧交を温めました。

て報告があり、同窓生有志による講演と参加者全員の自己紹介により、お互いの社会での活躍ぶりを知る事ができました。
(小松照幸 六九年卒)

☆支部の連絡先は
事務局だよりに掲載

成果を上げる
国際交流プログラム

外国語学部と留学生別科が設置されて、はや五年目になります。この四年間大学キャンパスの整備は見違えるほど進み、今やたいへん立派な大学へと変貌しつつあります。

大学の国際交流は目覚ましいスピードで進み、教育の成果をあげています。海外の提携校はアメリカを中心に、オーストラリア、中国と提携は二〇校近くに及び、この数は全国でもトップレベルに達しております。海外への留学生派遣も、短期留学では、二〇〇名を超え、長期留学では四〇名以上が、懸命に学習し

ています。
他方、諸外国から受け入れ留学生も飛躍的に増えました。この秋からは一一カ国三七名となり、欧米の留学生受け入れ数としては、中部地方では、南山大学の次に多い数になりました。

これらの留学生は、一留学生別科一で受け入れ、日本語及び日本文化・社会について、日々真摯に学んでいます。
今後は、海外の大学からも大きな信頼を持たれる日本研究プログラムとして、より一層教育内容の充実を計ります。また留学生のためのホームステイ家庭の募集や、国際交流基金づくり力を注いでいきます。

(留学生別科)
小松照幸 六九年卒

